

横浜地区連絡協議会 第94回かながわ中央メーデー レポート

4月29日神奈川中央メーデーに初めて参加させていただきました。

コロナ禍の中久しぶりに集合形式でメーデーを行うことができ少しお祭り騒ぎのようなメーデーを体験させていただきました。

式典前に亀崎委員長よりメーデーとはどういうものかと言うお話をいただき10時20分より式典が始まり11時40分閉会を迎えました。

やはり労働組合は集まってみんなで語らうが1番と肌で感じたメーデーでした。

またよろしくお願ひ致します。

(全日通労組 中鉢実)

4月29日かながわ中央メーデーに参加して参りました。

今回楠原輸送労組からは25名の予定でしたが当日22名の参加者が参加しました。今までのメーデーではうちとしては最大人数が集まりました。

嬉しかったののうちでは珍しい20代の組合員が積極的に出席してくれた事です。

話を聞いてみるとメーデー自体を知らないとの事でした。

メーデーとは何なのか?を知るのも当然ですが、コロナ前やコロナ禍に入社した組合員が楠原内でも様々な営業所の皆が集まり交流を楽しんでいました。

今後はこのメーデーがキッカケになっても良いと思っておりますが、労働組合に関心を持ってくれる→そしてまたその先に運輸労連神奈川県連に集う組合の皆さまとも交流が出来るようになってくれたらと思いました。

(楠原輸送労組 菊地陽一)

コロナ禍により3年間の中止を余儀なくされた「第94回 神奈川中央メーデー」は人数制限の条件付きであったが、実現された。式典では議長団の挨拶から始まり、主催者代表である吉坂会長のスピーチがあり、現在の過酷な労働条件から今後の改善に向けた必要性や今次春闘での各単組の奮闘、尽力への賛辞が述べられた。また、先に行われた統一地方選の期間中にゴシップ報道から事実関係を認めた黒岩神奈川県知事の挨拶もあり、マスコミでの弁明と全く同様の内容であり、メーデー式典でのスピーチとしては、やや苦しいものであった。選挙結果は圧勝ではあったものの、抗議の意思であろう白紙投票の多さを猛省し、まさにスピーチ通り信用を職務で回復されたい。

その他の来賓挨拶は3分以内という制約があり少し巻き加減で慌ただしかった。

メーデー当日は、見事な快晴に恵まれ、横浜ならではのシチュエーションの中、若干強めの風であったが久しぶりの屋外活動という事もあり潮風が心地良く感じた。更に産別の隔たり無く、共に働く仲間と談笑、同じ時間を共有出来た事が何よりも得難いものであった。

10:20から開催された式典は、スケジュール通り11:40に閉会となり、各単組ずつそれぞれ解散する事となった。中止前の参加者に比べるとかなりスペースに空きがあり寂しさは否めないが、変異株の終息でない一時的な収束と捉えれば主催側の立場を考慮すると仕方が無い事ではある。来年こそは、制約の無いメーデー開催を望みます。
(SBS フレイト サービス労組 櫻井健一郎)

4月29日(土)、約3年ぶりとなる「かながわ中央メーデー」に参加しました。コロナ感染症対策に伴い、開催規模は従来の約半分5000人規模となり、コンパクトな開催にはなりましたが、数年ぶりのメーデー開催でもあり、会場はより一層、活気に溢れていました。当日は初夏を思わせるような暑さではありましたが、最後の「団結ガンバロー」には会場が一致団結し、労働者のメーデーに対する思いを今一度、感じる事ができました。来年こそは従来の開催規模で、より多くの仲間と参加できればと思いました。ありがとうございました。
(全日通労組 郷家英樹)

